

復習テスト #01 問題 (P.14～P.48)

問題 1 下記に示す項目を分類して解答用紙に示す貸借対照表と損益計算書を完成させなさい。

(資料)

商 品	15,000円	建 物	32,000円
受取手数料	5,000円	売 上	50,000円
現 金	10,000円	資 本 金	70,000円
給 料	15,000円	借 入 金	20,000円
旅費交通費	9,000円	受取利息	3,000円
売上原価	20,000円	備 品	16,000円
貸付金	17,000円	支払利息	4,000円

問題 2 下記の仕訳を解答用紙の各勘定口座へ転記しなさい。

(仕 訳) 7/2 (修 繕 費) 3,000 (現 金) 3,000

問題 3 下記に示す勘定口座を参考にして、解答用紙の試算表の () の中に適当な金額を記入しなさい。

現 金			
1/ 1	前期繰越	3,850	
2/ 4	売 上	15,260	
5/ 3	受取手数料	1,280	
6/ 9	受取利息	910	
10/4	借 入 金	5,000	
2/ 3	仕 入		9,360
6/ 2	支払利息		820
9/ 5	給 料		7,560
10/7	接待交際費		910
11/4	修 繕 費		1,650
12/4	借 入 金		5,000
借 入 金			
12/4	現 金	5,000	
1/ 1	前期繰越		8,000
10/4	現 金		5,000

復習テスト #01 解答用紙

問題 1

貸借対照表

△△商会	平成〇〇年12月31日	(単位：円)

損益計算書

自平成〇〇年1月1日		
△△商会	至平成〇〇年12月31日	(単位：円)

問題 2

修繕費	現金
() () () ()	() () () ()

問題 3

合計試算表

借方	勘定科目	貸方
()	現金	()
	⋮	
()	借入金	()

残高試算表

借方	勘定科目	貸方
()	現金	
	⋮	
	借入金	()

復習テスト #01 解答・解説

問題 1

貸借対照表

△△商会		平成〇〇年12月31日		(単位：円)
現 金		10,000	借 入 金	20,000
商 品		15,000	資 本 金	70,000
貸 付 金		17,000		
建 物		32,000		
備 品		16,000		
		90,000		90,000

損益計算書

△△商会		平成〇〇年12月31日		(単位：円)
売上原価		20,000	売 上	50,000
給 料		15,000	受取手数料	5,000
旅費交通費		9,000	受取利息	3,000
支払利息		4,000		
当期純利益		10,000		
		58,000		58,000

問題 2

修繕費			現 金		
7/2 現	金	3,000			7/2 修繕費 3,000

問題 3

合計試算表

借 方	勘定科目	貸 方
26,300	現 金	25,300
	⋮	
5,000	借 入 金	13,000

残高試算表

借 方	勘定科目	貸 方
1,000	現 金	
	⋮	
	借 入 金	8,000

復習テスト #02 問題 (P.50～P.81)

問題1 下記に示す商品売買の取引の仕訳を示しなさい。

- ① 当社は、A社より商品10,000円を仕入れるにあたり手付金3,000円を現金で支払った。
- ② 上記商品を引取り、引取りの際に運賃800円を現金で支払った。なお残金7,000円は翌月末に支払うこととした。
- ③ B社へ商品20,000円を売り上げた。代金のうち5,000円は現金で手付金として受取っており、残金15,000円は掛とした。

問題2 下記に示す現金、預金関係の取引の仕訳を示しなさい。

- ① C社へ商品12,000円を売上げ、代金として8,000円はC社振出の小切手を受取り、残額は現金を受取った。
- ② 用度係より2月分の小口経費の支払として下記の報告を受け、同額の小切手を本日振出した。
交通費 7,000円、通信費 3,000円、雑費 1,000円
- ③ 買掛金28,000円を支払うために小切手を振出した。ただし当日の当座預金残高は15,000円であった。銀行との間に100,000円の当座借越契約を締結している。(二勘定制採用)

問題3 下記に示す手形関係の取引の仕訳を示しなさい。

- ① 甲社の買掛金25,000円を決済するために、乙社宛の為替手形を振出して、乙社へ引受呈示をし、その引受を得たのでこの手形を甲社に引渡した。
- ② 商品13,000円をD社より仕入れ、5,000円はE社振出当社宛の約束手形を裏書譲渡し、8,000円は掛とした。
- ③ 本日F社振出当社宛の約束手形7,000円の支払期日であったが、F社より支払期日の延期の申出があり、これを了承し7,300円の新手形を受取った。
- ④ 保有するG社振出当社宛の約束手形40,000円を取引銀行で割引き、割引料3,000円を控除した残額を当座預金に預入れた。

復習テスト #02 解答用紙

問題 1

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				
3				

問題 2

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				
3				

問題 3

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				

復習テスト #02 解答・解説

問題 1

①	(前払金)	3,000	(現金)	3,000
②	(仕入)	10,800	(買掛金)	7,000
			(前払金)	3,000
			(現金)	800
③	(売掛金)	15,000	(売上)	20,000
	(前受金)	5,000		

解説

3. 前受金の受取時に下記の処理を行っているはずです。

(現金)	5,000	(前受金)	5,000
------	-------	-------	-------

問題 2

①	(現金)	12,000	(売上)	12,000
②	(交通費)	7,000	(小口現金)	11,000
	(通信費)	3,000		
	(雑費)	1,000		
	(小口現金)	11,000	(当座預金)	11,000
③	(買掛金)	28,000	(当座預金)	15,000
			(当座借越)	13,000

解説

1. 他人振出小切手と現金(通貨)は一括して処理して下さい。

2. 下記の仕訳でも正解です。

(交通費)	7,000	(当座預金)	11,000
(通信費)	3,000		
(雑費)	1,000		

問題 3

①	(買掛金)	25,000	(売掛金)	25,000
②	(仕入)	13,000	(受取手形)	5,000
			(買掛金)	8,000
③	(受取手形)	7,300	(受取手形)	7,000
			(受取利息)	300
④	(当座預金)	37,000	(受取手形)	40,000
	(手形売却損)	3,000		

解説

1. 買掛金決済のための為替手形の振り出しですから、売掛金と買掛金を相殺して下さい。

3. 借方が新手形、貸方が旧手形です。

復習テスト #03 問題 (P.82～P.105)

問題 1 下記に示す有価証券関係の取引の仕訳を示しなさい。

- ① 資金的な余裕があるため A 社株式 100 株（時価 @8,000 円）を売買目的で購入し、手数料 6,000 円を含めた金額の小切手を振り出した。
- ② 上記 A 社株式の時価が @9,000 円となったので 50 株を売却し、手数料 3,000 円を控除した金額を後日受け取ることにした。
- ③ ①の A 社株式 50 株を運転資金が不足しているため @7,500 円で売却し、手数料 3,000 円を控除した金額を当座預金口座に振り込ませた。

問題 2 下記に示す給料関係の取引の仕訳を示しなさい。

- ① 従業員 B より、交通反則金 10,000 円の立替払いの申し出があったので、給料と精算することとして、現金を渡した。
- ② 本日給料につき従業員 B に給料 300,000 円を支給するものとし、上記立替金 10,000 円、所得税 20,000 円、社会保険料 30,000 円を控除した 240,000 円を現金で支払った。
- ③ 上記給料から控除した社会保険料に会社負担分を加算した 60,000 円を現金で社会保険事務所へ納付した。

問題 3 下記に示す諸取引の仕訳を示しなさい。

- ① C 社より現金 50,000 円を借入れ、この借入金の返済日を支払期日とする同額の当社振出 C 社宛の約束手形を振出し、C 社へ引渡した。
- ② 備品 30,000 円を購入し、10,000 円は現金で支払い、残額は掛けとして翌月末に支払うことにした。
- ③ 出張から帰社した従業員 D より仮払いしていた 50,000 円の精算を受け、残金 3,000 円を現金で受取った。使用した金額の内訳は交通費 17,000 円、交際費 30,000 円である。
- ④ 先日当座預金に入金があり内訳不明で処理していた仮受金 4,000 円は得意先 E 社からの手付金であることが判明した。

復習テスト #03 解答用紙

問題 1

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2	-----	-----	-----	-----
3	-----	-----	-----	-----

問題 2

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2	-----	-----	-----	-----
3	-----	-----	-----	-----

問題 3

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2	-----	-----	-----	-----
3	-----	-----	-----	-----
4				

復習テスト #03 解答・解説

問題 1

①	(売買目的有価証券)	806,000	(当座預金)	806,000
②	(未収金)	447,000	(売買目的有価証券)	403,000
	(支払手数料)	3,000	(有価証券売却益)	47,000
③	(当座預金)	372,000	(売買目的有価証券)	403,000
	(有価証券売却損)	28,000		
	(支払手数料)	3,000		

解説

2. 有価証券売却益： $\{ @9,000円 - @8,060円 (= 806,000円 / 100株) \} \times 50株 = 47,000円$
3. 有価証券売却損： $(@8,060円 - @7,500円) \times 50株 = 28,000円$

問題 2

①	(立替金)	10,000	(現金)	10,000
②	(給料)	300,000	(現金)	240,000
			(立替金)	10,000
			(預り金)	50,000
③	(法定福利費)	30,000	(現金)	60,000
	(預り金)	30,000		

解説

3. 従業員の社会保険料（健康保険料等）の会社負担額は、費用である法定福利費勘定で処理します。

問題 3

①	(現金)	50,000	(手形借入金)	50,000
②	(備品)	30,000	(現金)	10,000
			(未払金)	20,000
③	(現金)	3,000	(仮払金)	50,000
	(交通費)	17,000		
	(交際費)	30,000		
④	(仮受金)	4,000	(前受金)	4,000

解説

3. 仮払時に下記の処理が行われています。本間は、この仮払金の精算です。

(仮払金) 50,000 (現金) 50,000

4. 当座預金の入金時に下記の処理が行われています。

(当座預金) 4,000 (仮受金) 4,000

復習テスト #04 問題 (P.108～P.120)

問題1 下記に示す2枚の伝票を参考にして解答用紙に通常の仕訳を示しなさい。

出金伝票

平成○年2月8日
(備品) 5,000

振替伝票

平成○年2月8日
(備品) 15,000 (未払金) 15,000

問題2 商品30,000円を販売し10,000円は現金を入金し、残額は掛とした。この取引を三伝票制で処理すると2つの処理方法が考えられる。一方の処理を下記の方法で行った場合、もう一法の処理方法を解答用紙の伝票に示しなさい。

入金伝票

平成○年3月5日
(売上) 10,000

振替伝票

平成○年3月5日
(売掛金) 20,000 (売上) 20,000

復習テスト #04 解答用紙

問題 1

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額

問題 2

入金伝票
平成〇年3月5日

() 10,000

振替伝票
平成〇年3月5日

() 30,000 () 30,000

復習テスト #04 解答・解説

問題 1

(備	品)	20,000	(現	金)	5,000
			(未	払	金) 15,000

解説

2枚の伝票をそれぞれ通常の仕訳として示せば次の通りです。解答はこの仕訳を合計して考えて下さい。

(1) 出金伝票

(備	品)	5,000	(現	金)	5,000
----	----	-------	----	----	-------

(2) 振替伝票

(備	品)	15,000	(未	払	金) 15,000
----	----	--------	----	---	-----------

問題 2

入金伝票

平成〇年3月5日
(売掛金) 10,000

振替伝票

平成〇年3月5日
(売掛金) 30,000 (売上) 30,000

解説

一部現金取引には、問題で示されている取引を分解する処理方法と、解答で要求する掛売上とみなし、一部売掛金を現金で回収する処理を行うという2つの方法があります。それぞれの処理を示せば次のようになります。

(1) 取引を分解処理する……問題で例示している処理

- ① 入金伝票：(現 金) 10,000 (売 上) 10,000
- ② 振替伝票：(売 掛 金) 20,000 (売 上) 20,000

(2) 掛売上とみなす処理……解答として要求されている処理

- ① 入金伝票：(現 金) 10,000 (売 掛 金) 10,000
- ② 振替伝票：(売 掛 金) 30,000 (売 上) 30,000

復習テスト #05 問題 (P.122～P.157)

問題 1 下記に示す残高試算表は、当期末におけるものである。期末商品の棚卸高が30,000円として決算整理仕訳を示しなさい。

残高試算表

平成○年12月31日

繰越商品	20,000	
仕入	350,000	

問題 2 下記に示す資料により決算整理仕訳を解答欄に示しなさい。

残高試算表

平成○年12月31日

受取手形	420,000	貸倒引当金	25,000
売掛金	580,000		
建物	2,000,000	減価償却累計額	1,125,000

(資料)

- ① 受取手形と売掛金の期末残高に4%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- ② 建物に定額法(耐用年数40年、残存価額は取得原価の10%)により減価償却費を計上する。

問題 3 下記に示す資料により経過勘定項目に関する決算整理仕訳を示しなさい。

残高試算表

平成○年12月31日

支払保険料	156,000	受取地代	96,000
-------	---------	------	--------

(資料)

- ① 支払保険料のうち36,000円は翌期の前払分である。
- ② 受取地代24,000円を未収収益として計上する。

復習テスト #05 解答用紙

問題 1

決算整理仕訳

(仕 入)	(繰 越 商 品)
(繰 越 商 品)	(仕 入)

問題 2

決算整理仕訳

① 貸倒引当金の繰入	()
()	()
② 減価償却費の計上	()
()	()

問題 3

決算整理仕訳

① 前払保険料	()
()	()
② 未収地代	()
()	()

復習テスト #05 解答・解説

問題 1

決算整理仕訳

(仕 入) 20,000 (繰越商品) 20,000……①
 (繰越商品) 30,000 (仕 入) 30,000……②

解説

繰越商品			
	1/1 前期繰越	20,000	12/31 仕入
	②……12/31 仕入	30,000	20,000……①

仕 入			
	12/31 諸口	350,000	12/31 繰越商品
	①……" 繰越商品	20,000	30,000……②

-----> 売上原価
340,000円

問題 2

決算整理仕訳

- ① 貸倒引当金の繰入
 (貸倒引当金繰入) 15,000 (貸倒引当金) 15,000
- ② 減価償却費の計上
 (減価償却費) 45,000 (減価償却累計額) 45,000

解説

1. 貸倒引当金の計上

$$\begin{array}{r} \text{受取手形} \\ (420,000\text{円} + 580,000\text{円}) \end{array} \times 4\% - \begin{array}{r} \text{繰入率} \\ 25,000\text{円} \end{array} = \begin{array}{r} \text{貸倒引当金} \\ 15,000\text{円} \end{array}$$

2. 減価償却費の計上

$$\begin{array}{r} \text{取得原価} \\ (2,000,000\text{円} - 2,000,000\text{円} \times 0.1) \end{array} \div \begin{array}{r} \text{残存価額} \\ 40\text{年} \end{array} = \begin{array}{r} \text{耐用年数} \\ 45,000\text{円} \end{array}$$

問題 3

決算整理仕訳

- ① 前払保険料
 (前払保険料) 36,000 (支払保険料) 36,000
- ② 未収地代
 (未収地代) 24,000 (受取地代) 24,000

解説

- 前払保険料勘定は、前払費用勘定を使用しても構いません。
- 未収地代勘定は、未収収益勘定を使用しても構いません。

復習テスト #06 解答・解説

問題 1

①	(現金過不足)	13,000	(現金)	13,000
②	(交際費)	10,000	(現金過不足)	10,000
③	(雑損)	3,000	(現金過不足)	3,000
④	(現金)	2,000	(雑益)	2,000

解説

現金過不足勘定は、期中でしか計上できません。決算で過不足が発生した場合には、不足額は雑損へ、超過額は雑益として処理して下さい。

問題 2

決算整理仕訳

(有価証券評価損益) 10,000 (売買目的有価証券) 10,000

解説

帳簿価額	期末時価		
A社株式：70,000円	< 90,000円	⇒	20,000円 (評価益)
B社株式：110,000円	> 80,000円	⇒	30,000円 (評価損)
			- 10,000円 (評価損)

問題 3

決算振替仕訳

① 費用の振替				
(損)	益	27,000	(仕入)	16,000
			(給料)	9,000
			(通信費)	2,000
② 収益の振替				
(売上)	30,000	(損益)	31,000	
(受取利息)	1,000			

解説

(日付省略)		損	益	
仕入	16,000	売上	30,000	
給料	9,000	受取利息	1,000	
通信費	2,000			

復習テスト #07 問題 (P.184～P.212)

問題 1 下記に示す商品有高帳の2月4日払出欄の()の中に先入先出法、移動平均法を採用する場合の単価と金額をそれぞれ解答用紙に示しなさい。

商品有高帳

日付	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
2 1	前 月 繰 越	100	38	3,800				100	38	3,800
2	仕 入	200	44	8,800				(以下省略)		
4	売 上				100	(?)	()			

問題 2 下記に示す取引はどのような補助簿に記入されるか、記入が必要と思われる補助簿につき解答欄に○印を記入しなさい。

(取引)

- ① 商品20,000円を売り上げ、5,000円は現金で受け取り、残額は掛とした。
- ② 仕入先に対する買掛金8,000円を決済するために仕入先宛の約束手形を振り出した。
- ③ A社より仕入れた商品2,000円を品違いのため返品した。代金は買掛金と相殺した。
- ④ 本日、受取手形の支払期日であり、手形代金7,000円が当社の当座預金口座に入金されているのを確認した。
- ⑤ 仕入先に対する買掛金9,000円を決済するために得意先宛の為替手形を振出し、得意先の引受を得たので、この手形を仕入先に引渡した。

復習テスト #07 解答用紙

問題 1

	単 価		金 額	
先入先出法	@ ()	円	()	円
移動平均法	@ ()	円	()	円

問題 2

補 助 簿	1	2	3	4	5
現金出納帳					
当座預金出納帳					
仕 入 帳					
売 上 帳					
商品有高帳					
売掛金元帳					
買掛金元帳					
受取手形記入帳					
支払手形記入帳					

復習テスト #07 解答・解説

問題 1

	単 価	金 額
先入先出法	@ 38 円	3,800円
移動平均法	@ 42 円	4,200円

解説

1. 先入先出法

古い在庫である前月繰越分100個 (@38円) を優先して払出す。

2. 移動平均法

2月2日に200個 (@44円) の商品を仕入れた際に、下記の方法で平均単価を計算します。これが2月4日の払出単価になります。

$$\text{単価} : \frac{\text{@38円} \times 100 \text{個} + \text{@44円} \times 200 \text{個}}{100 \text{個} + 200 \text{個}} = \text{@42円}$$

問題 2

補 助 簿	1	2	3	4	5
現金出納帳	○				
当座預金出納帳				○	
仕 入 帳			○		
売 上 帳	○				
商品有高帳	○		○		
売掛金元帳	○				○
買掛金元帳		○	○		○
受取手形記入帳				○	
支払手形記入帳		○			

解説

1. 売上帳、現金出納帳、売掛金元帳の他に商品有高帳にも記録しなければなりません。

(現金) 5,000 (売上) 20,000
(売掛金) 15,000

2. 買掛金が減少して、支払手形が増加します。

(買掛金) 8,000 (支払手形) 8,000

3. 仕入返品(掛)は掛仕入と同じ補助簿に記入を行います。

(買掛金) 2,000 (仕入) 2,000

4. 受取手形の回収は、受取手形記入帳と当座預金出納帳に記入します。

(当座預金) 7,000 (受取手形) 7,000

5. 為替手形の振出しは、手形記入帳には記入されません。

(買掛金) 9,000 (売掛金) 9,000

復習テスト #08 問題 (P.274～P.230)

問題 下記に示す資料に基づいて、解答用紙に示す精算表を完成させなさい。

(資料)

- ① 当期末における商品の棚卸高は750円である。
- ② 受取手形と売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- ③ 備品について（定額法、耐用年数5年、残存価額は取得原価の10%）減価償却費を計上する。
- ④ 売買目的有価証券の期末における時価は1,500円であるため評価替を行う。
- ⑤ 現金過不足は期末までその不足額の原因が不明であった。
- ⑥ 保険料のうち130円は前払分である。
- ⑦ 受取手数料のうち110円は前受分である。
- ⑧ 引出金勘定350円を資本金と相殺する。

復習テスト #08 解答用紙

精 算 表

勘定科目	試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	1,340							
現金過不足	150							
当座預金	3,000							
受取手形	4,600							
売掛金	3,400							
売買目的有価証券	1,300							
繰越商品	800							
備品	5,000							
支払手形		2,100						
買掛金		1,900						
貸倒引当金		90						
減価償却累計額		900						
資本金		9,000						
売上		19,800						
受取手数料		310						
仕入	9,700							
給料	3,200							
保険料	660							
支払家賃	600							
引出金	350							
	34,100	34,100						
貸倒引当金繰入								
減価償却費								
有価証券()								
()								
前払()								
前受()								
当期純利益								

復習テスト #08 解答・解説

精 算 表

勘定科目	試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	1,340						1,340	
現金過不足	150			150			—	
当座預金	3,000						3,000	
受取手形	4,600						4,600	
売掛金	3,400						3,400	
売買目的有価証券	1,300		200				1,500	
繰越商品	800		750	800			750	
備品	5,000						5,000	
支払手形		2,100						2,100
買掛金		1,900						1,900
貸倒引当金		90		70				160
減価償却累計額		900		900				1,800
資本金		9,000	350					8,650
売上		19,800				19,800		
受取手数料		310	110			200		
仕入	9,700		800	750	9,750			
給料	3,200				3,200			
保険料	660			130	530			
支払家賃	600				600			
引出金	350			350	—			
	34,100	34,100						
貸倒引当金繰入			70		70			
減価償却費			900		900			
有価証券(評価損益)				200		200		
(雑損)			150		150			
前払(保険料)			130				130	
前受(手数料)				110				110
当期純利益					5,000			5,000
			3,460	3,460	20,200	20,200	19,720	19,720

解説

1. 期末商品棚卸

(仕 入)	800	(繰 越 商 品)	800
(繰 越 商 品)	750	(仕 入)	750

2. 貸倒引当金の繰入

(貸倒引当金繰入)	70 *	(貸 倒 引 当 金)	70
-----------	------	-------------	----

*内訳

$$\begin{array}{r} \text{受取手形} \\ (4,600 \text{円} + \text{売掛金} \\ (3,400 \text{円}) \times \text{繰入率} \\ 2\% - \text{貸倒引当金} \\ 90 \text{円} = 70 \text{円} \end{array}$$

3. 減価償却費の計上

(減 価 償 却 費)	900 *	(減価償却累計額)	900
-------------	-------	-----------	-----

*内訳

$$\begin{array}{r} \text{取得原価} \\ (5,000 \text{円} - \text{残存価額} \\ 5,000 \text{円} \times 0.1) \div \text{5年} = 900 \text{円} \end{array}$$

4. 売買目的有価証券の評価替

(売買目的有価証券)	200	(有価証券評価損益)	200 *
------------	-----	------------	-------

*内訳

$$\begin{array}{r} \text{期末時価} \\ 1,500 \text{円} - \text{帳簿価額} \\ 1,300 \text{円} = 200 \text{円} \end{array}$$

5. 現金過不足勘定の精算

(雑 損)	150	(現 金 過 不 足)	150
-------	-----	-------------	-----

6. 前払保険料の計上

(前 払 保 険 料)	130	(保 険 料)	130
-------------	-----	---------	-----

7. 前受手数料の計上

(受 取 手 数 料)	110	(前 受 手 数 料)	110
-------------	-----	-------------	-----

8. 引出金の精算

(資 本 金)	<u>350</u>	(引 出 金)	<u>350</u>
	3,460	←-----整理記入欄計-----→	3,460

